

センバツ目指し調整 山田高、光星 きょう準決勝

第76回 秋季東北
高校野球

第76回秋季東北地区高校野球大会は21日、秋田市のこまちスタジアムで準決勝2試合を行う。青森山田（第1代表）は一関学院（岩手第1代表）、八戸学院光星（第2代表）

は学法石川（福島第3代表）と激突。県勢両校は20日、同市の室内練習場で打撃練習などに汗を流した。

青森山田は約2時間、一関学院の主戦左腕をイメージした打撃を中心に練習。各打者は直球、変化球を鋭く打ち返し、好調ぶりをうかがわせた。

主戦関は投球フォームをチェックしながら軽めの調整。野手陣はゴロ捕球の動きも確認した。

兜森監督は「投手は野手を信頼して打者を攻め、野手はもり立てる守備をしてほしい」と期待。主将橋場は「相手は粘り強く堅実な野球をやるチーム。打ち勝ちたい」と

闘志を燃やした。

八学光星も宿舍でミーティングを行った後、午後1時ごろから約2時間練習。打撃に長い時間を割き、学法石川の投手陣を想定した右投げの打撃投手やマシンを相手に徹底的に打ち込んだ。バスターや犠打の確認も念入りに行った。

仲井監督は「相手は個々の体が大きく能力も高いが、勝ちにこだわって戦う」と話し、主将砂子田は「自分たちのペースで試合を運び、勝利につなげたい」と意気込んだ。

今大会の成績は、来春の選抜高校野球大会（センバツ）の東北地区出場校3校を選出する参考となる。決勝に進出すれば、センバツ出場が大きく近



相手投手を想定した打撃練習に汗を流す八学光星の選手。20日午後、秋田市